

コラム7

多摩川から続く川の道を 辿って来た植物について

東久留米市の北は、野火止用水と呼ばれる用水路で東村山市や清瀬市などと境を隔てています。それらは、1655年武蔵野開発のために作られた玉川上水からの分水路です。流域には山地性植物のタマアジサイ〔注1〕や、コバギボウシ、オオバギボウシ、チゴユリが生育しています。当市は平野部に位置しており、同用水の開削が深く関わっていると考えられます。

何らかの要因により種子や株などが生育地近辺の水辺に流れ込み、沢筋から多摩川へ、更に流れに乗り羽村取水堰から玉川上水を経て当市に辿り着き、野火止用水沿いにそれらの植物が生育できる環境があったため、生育してきたと考えられます。

丘陵地、山地の在来種であり、人工水路が起因した帰化種と言っても過言ではありません。しかしながら、川の道を辿り当市に定着した大変貴重な植物です。これからも大切に保護していきましょう。

〔注1〕：タマアジサイは山地の沢沿いなどに群生する事が多い。当市での開花はアジサイなどよりひと月ほど遅く8月上旬頃。蕾は頭頂部に一つ付けて3cmほどに生長するとクスダマが割れるようにして開花する。



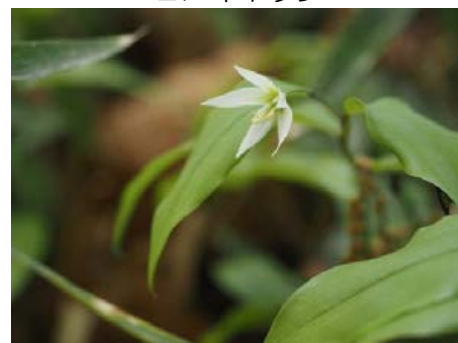
タマアジサイ



コバギボウシ



オオバギボウシ



チゴユリ